

武並町まちづくり町民会議（恵那市）

農山村

地域自治

取組の背景

- ・恵那市武並地区は旧武並村。昭和 29 年 8 町村が合併し恵那市に。
- ・武並地区は恵那市西部に位置する田園地域。地域の中央に国道 19 号と J R 中央線が走る。J R には武並駅があり、名古屋駅から 1 時間程度。
- ・地域内には、恵那テクノパークと恵那スケート場（クリスタルパーク恵那）がある。
- ・歴史的な資源としては、中山道があり、J R のさわやかウォークの常設コースとなっている。毎回の参加者は 2,000 人程度。
- ・地区の人口は 3,300 人程度。1,050 世帯（自治会加入は 880 世帯程度）程度。

取組の概要

○取組団体の概要

- ・設立：平成 7 年 9 月
- ・会員：町内在住者
- ・委員：町内自治会、地域活動団体等各種団体代表者。地区の小中学校、警察署駐在所、市振興事務所、森林組合も構成団体
- ・役員：会長 1、副会長・部会長 8、監事 2 名（任期は 1 年。再任可）
- ・財源：会費（1 世帯あたり 500 円）、寄付金、地区自治会（協議会）からの助成金等
- ・組織：総会（委員と役員で構成）、役員会、8 部会、実行委員会
8 つの部（学習部、交流部、健康部、奉仕部、広報部、福祉部、環境部、食農部）が担当副会長（各 1 名）のもとに事業を実施
事務局：3 名（事務局長 1、事務補助 1（事務局業務の大半を担当）、会計 1）
- ・その他 恵那市まちづくり事業の実行組織としての役割を果たす（地域協議会で企画した事業の実行を担う組織）

取組の内容

- まちづくり町民会議では、8 つの部毎に事業

を実施。当初から 8 部ではなく、順次事業を拡大して現在 8 部。

- ・学習部会：武並町文化祭り（秋に開催。8 回目）
- ・交流部会：夏祭り i n 武並。ふれあいウォーク（委員である中山道保存会が協力して実施。12 回目。小学生を対象。史跡、名勝を巡るコースと史跡等の詳細な解説を施したパンフを作成。これに参加することで、地域の歴史を理解できる。）



ウォーキングコースの整備活動の様子

- ・奉仕部会：ふれあいオアシスづくり（花壇への花植え：来訪者へのおもてなしとゴミのポイ捨て防止の観点から花壇を設置。また、毎年 2 回春秋の花植えをすることで地域の連携を深める）
 - ・広報部会：毎月 1 回 1 日発行（地域の動向や市からのお知らせを掲載。）なお、別途公民館から公民館活動関係の情報を掲載した情報誌を毎月 15 日に発行
 - ・健康部会：マレットゴルフの管理・運営。町民大会の開催
 - ・福祉部会：ふるさと福祉村サービス（独居老人への見回り、食事の提供、おむつ支給等）。食事の提供は地域の婦人会（すみれ会）が手弁当で実施。
 - ・環境部会：防犯・不法投棄パトロールの実施
 - ・食農部会：地域物産販売所設置（新設スケート場来場者へのおもてなしと地域農産物を地元で販売する施設がなかったため（従前は道の駅「らっせい三郷」まで運んで販売）、スケート場内に設置を計画。）。保健所から調理の通年許可が得られるよう調理室を改造
- ※なお、福祉部、環境部及び食農部の 3 部は市の地域づくり事業の実施に伴い 18 年度から新設。

また、18 年度からの各部の事業には市

地域づくり補助金 15,000 千円が一部充てられている。

事に協力的である（町民会議のメンバーでもある。）

成果

- ・昭和の大合併を契機として地道なまちづくりを重ね、平成7年には自治会や目的別地域活動団体を巻き込んだまちづくり町民会議を設立。住民主体の地域づくりの基盤が形成されている。新市の地域づくり事業にもスムーズに対応している。
- ・また、地域で課題が生じた場合、すぐに検討委員会が組織されるという機動的な対応が可能である。
たとえば、藤地区の僻地保育園と武並保育園の統合問題については、検討委員会で検討し、建設委員会で具体的な整備計画を検討している。

成果の要因

- もともと地区は地域づくりについて協力的な土壌がある。
 - ・昭和23年に武並音頭が作曲され（8つの地区の全てが歌詞に歌われている）、中学校で学習し、運動会では踊りを披露。
 - ・昭和32年からは町民運動会を実施。その前から桜祭りを実施。桜祭りはその後夏祭りに変更。
 - ・竹折・藤の2地区の神社の祭礼日も話し合いにより統一。
- まちづくりに住民・団体が積極的に関与
 - ・保育園の保護者会、小学校、中学校のPTAを経験すると必ずまちづくりに関与することとなる（保護者会・PTAともまちづくり町民会議のメンバー）。同じメンバーが10年後にまちづくりに関与することでネットワークと実施のノウハウを取得できる。
 - ・中山道保存会や森林組合、老人倶楽部、ハンズ武並、消防団など自治会以外の各種団体も町民会議に協力的であり、住民・各種団体が一体となって取り組む体制となっている。
 - ・地域の中心である学校も伝統的に地域の行

今後の課題

- ・今年度3つの部会（福祉・環境・食農）を新設したが、活動財源が市からの地域づくり補助金であるため、補助金が終了する5年後も事業を継続できるような仕組みづくりを考えている。具体的には、財源の確保であり、地域物産販売施設はその手段と考えている。
- ・老人のための憩いの場としてのふれあいサロンが必要と考えている。現在、地区の民生委員は6名であるが、月の大半が独居老人の見回り、食事サービスなど福祉部会の活動で忙殺されており、そのような検討ができない状況にある。
- ・また、スケート場を地域に根付かしていく取組が必要である。時間はかかると思うが。最近、工業団地企業に勤める外国人労働者が増えている。自治会未加入者の解消も課題である。

行政への期待

- ・市長が出席する地域懇談会は継続開催してほしい。地域福祉懇談会等は、1回の実施ではなく、地域づくりのためには継続開催していくべきものである。
ただし、地元の参加者が少ないのは（50人に声をかけても30人しか集まらなかった）地元の問題だと考えている。
- ・市の地域づくりの補助金は、食事代が1日一人300円だとか、ハード整備は100万円までであるなどの制限があるため、もう少し制限を緩和し、使い勝手を良くしてもらえるとありがたい。

この人にお話をうかがいました！

武並町まちづくり町民会議
会長 山本正教さん

調査日：平成18年10月27日（金）
調査者：市町村課 樋口

東濃振興局恵那事務所 長沼、北神